

JIA長野県クラブ 36

社団法人 日本建築家協会

1999. 5. 1



▲第7回文化講演会（3・23松本市）
佐々木睦朗氏



第3回あすなろ見学会風景▶

飯田市「小笠原資料館」（妹島和世氏設計）の工事現場にて、構造設計者の佐々木睦朗氏に説明をしていただく。
〔右、ベレー帽が佐々木氏〕



▲あすなろ巡回展 （飯田会場）

130名が訪れ
熱心に見学



J I Aと地域活動

副会長 関 邦 則

建築設計に関連した団体組織はいくつも存在する。J I Aの他にも私たちに縁が深いところでは建築士会や建築士事務所協会や建築学会等がある。言うまでもなく各団体ともその成立の理念や資格等において独自性をもっており活動の内容もその趣旨に沿ったものとなっている。それぞれの存在意義や区別についての論議は本旨ではないので別に譲るが、個人的にいろいろな団体に関わっていて感じるのは、団体としての内的活性化はある程度可能なように見えるが、社会性のある活動言い換えれば地域社会に対するアピールというのはなかなか難しいということである。そもそも団体というのは目的や構成も様々で、企業のように忠誠的に結集しているわけではなく任意に成立しているものなので、対外的な企画を実行し継続していくには相応なエネルギーを要する。

J I Aはその成立理念の一つに建築家としての職能の確立を掲げている団体である。このような団体にとって社会性のある活動は非常に意義深いことである。他団体に比べて成立が新しく、ましてや不況下で団体力が低下している折りから対外的活動にエネルギーを注ぐのは困難を伴うが、言い訳をしているわけにはいかない。

J I Aは既に建築家資格制度・プロポーザルのガイドブック・保存運動・アーキテクトガーデンなどの社会的活動に取り組んできているし、長野県でも文化講演会や学生卒業設計コンクールやまちづくりフォーラムなどは社会との大切な接点になっている。また、あすなろ巡回展や（仮称）建築家カタログへの取組なども社会とのパイプになっていくことだろう。いきなり大きな成果をつくることは難しいが着実に積み重ねていくことがいつか社会的認知を得る確実なプロセスだと思う。社会という抽象的な全体像を対象にしても切り口を見出すのは難しいかもしれない。J I Aとの関係のなかでどういった層に働きかけていくことに意義があるのかについて少し分析的に検討してみることも良いのではないかという気がしている。行政、将来のクライアントになる？お父さんたち、女性たち、次代を担う学生や子供たち。。

私たちが建築設計という業務手段を通じて社会創造をしていくために、団体としての組織的地域活動がもたらす効果は確実にあると信じたい。組織として社会とどんな関わりをもてる活動をしていくのか。みんなでそのことを真剣に考えていく時がきている。



建築雑感～佐々木睦朗氏の 講演を聞いて～

平林 勇一
㈱伊藤建築設計事務所

建築とは知性と感性の統合の所産であると思う。創出される作品によって設計者としての私達の能力を曝け出すことになることを知りつつもこの仕事を続けているのは、創造することが根源的な喜びの一つだからであろう。過日、松本で開催された佐々木睦朗氏の講演を聞いて私はこの思いを更に強くした。

佐々木氏は、磯崎新、伊東豊雄といった海外でも活躍する建築家のパートナーとして知られている。講演会では「新建築」などの雑誌で紹介された作品について工事中の様子をスライドで示しながら解説していただいた。

特に興味深かったのは、現在でも工事中の「せんだいメディアテーク」であった。コンペの際の模型写真が雑誌で紹介されていたが、それを見て私は丹下健三氏によって35年位前に設計された山梨文化会館を思い出した。学生の頃見学した記憶があるが、柱に替わる中空のコアに階段やエレベーターを組み込む考え方が共通している。しかし決定的な違いは、建物としての存在感であろう。「山梨」の圧倒的な存在感、力強さに対し、「せんだい」の軽さ、透明感。伊東氏の斬新な発想がどのように実現されていったのだろうか。海草のような柱と薄いプレートによって構成するというアイデアが、佐々木氏の卓越した構造センスによって具現化されていくプロセス。私達の日常とは全く次元の異なる世界に圧倒されてしまった。この建物が仙台の町並みにどのような姿を現すのだろう。今から完成が楽しみである。(原 広司氏の宮城県立図書館とセットで見学ツアーをクラブで企画していただけませんか?)

講演会の際に購入した佐々木氏の著書「構造設計の詩法」の表紙にはトンボの羽が1枚大写しにされている。「せんだい」の床は鋼板サンドイッチ構造ということだが、リブの幾何学的なパターンが羽の模様とよく似ている。合理的な形のモデルは自然界に必ず存在するという。「せんだい」の床板が極めて合理的であることの証拠であろう。

佐々木氏の建築に対する情熱とこだわりには私は感銘を受けると同時に、広大な建築の世界に身を置くことの喜びを改めて感じた。



私事とご提案を一言

飯島 和夫
㈱飯島建築設計事務所

先日ある寒村の小さな小学校が解体されることになり、工事のお手伝いをし、解体が済み記念碑も建立されて一段落しました。記念式典にも参列。その折に感じた事を一言。

木造2階建て延べ1300㎡と小さな校舎で大正元年に建てられて、その後約90年間今日に至る迄よく風雪に耐え、多くの小学生の巣立つのを見守りその使命が全うされたかと思うと感無量な思いでした。昭和45年には村の合併により小学生も統合されて廃校になったものの、その後も今日迄の間、他の用途に使用されてきましたが、寄る年波には勝てず解体されました。その小学校に学んだ方々も何人か見えており、当時をしのんで語っておられるのを聞きながら、ふと私自身が建築の世界に入った当初のことを思い出しておりました。そこで当時のことに少し触れてみたいと思います。

私がこの世界に入ったのは、昭和24年でした。終戦間もない時で、学校制度も変わり6:3:3:4制になり、新制中学校が新しく市町村に建てられた時代でした。その当時は一部を除いて全て木造の校舎。今ではその役目を果たし、ほとんどがRC造の建物に代わっております。この解体された小学校の建物と、戦後建てられた新中学校に共通点があります。それは何かと言いますと、新建材がまったく使われていませんので、産業廃棄物として全然問題がなく処理されたことでした。物の無かった当時に建てられた建築物だから、当然と言えばそれまでかもしれませんが、今「建築が生む毒」と言うことで新聞記事としても掲載されたりしております。我々の携わる仕事の中で少しでも科学物質の含まれない素材を使用していかなければと思うのです。

私の担当した新制中学校の建物は極端に言えば石、砂、草、木材、と全て自然素材が使用されており、建物としての役割も十分果たされています。式典で私は「何故現在は科学物質を含んだ建材に頼らなければいけないのか、できることなら昔に戻って石と、草と、木材を使い、年季の入った職人で、伝統ある日本建築の一部でも我々の設計する建物の中に取り入れることができれば」と思いました。ダイオキシンの問題など毎日ニュースで報道されている中で、我々も環境破壊のない世の中をつくるために、燃やせる建物を造るべきではないでしょうか。



困った時の シーリング頼み

市瀬 清志

(株)桂建築設計事務所

現在建築されている建物で、シーリング材のお世話にならずに建築されているものは無いと言っても過言ではないと思います。

とても便利で現場での必需品となっているシーリング材ですが、安易に使われていることも多く「シーリングをしてあるから大丈夫」と平気でいる方にもしばしば出会います。しかし、私は「シーリング材は、永久的な材料にあらず」と肝に命じています。

時として、とんでもない落とし穴があり、建築後にクレームの多いことも事実ではないでしょうか。

材種的にも多種に渡り、使用部位での材種選定、特に屋外ではメーカーさんのカタログを見させて頂くと、目地巾・接着面長など詳細に渡っての使用上の留意点が提示されており、実に面倒な材料であることがわかります。また、目地巾や深さ7mm以上の接着面長が確保され、10年の寿命と言われていますが、笠木廻りなどシーリングで直表わしの部分では、条件によって5~6年程度で劣化が見られます。先項は、鳥による被害にも出くわしました。メーカーさんと有効な対策について検討してみましたが、建物の意匠的なこともあり「有効な対策は無し」との結果でした。結局、鳥が止まれない構造にする以外処置なしで、水平面での劣化防止・鳥害防止の特策は無いものかと頭を悩ませているのが現状です。

以前、施工後の現場で、目地巾・目地深は規定通り確保してあったのに、元請からの予算的な問題からか？バックアップ材が不適で施工したシーリング厚が極めて薄く施工されており、全て打直しをして頂くざるを得ないことがありました。

施工後は、厚みの確認もままならず、意図的ではなくても、職人さんの“へら”の使い方によっては、部分的に薄くなってしまふケースも考えられ、施工者の方や職人さん共々充分注意して施工するようにお願いしているところです。

シーリング材は、現段階では無くてはならない材料でありとても都合の良いものです。材料の特性を知り、設計段階でも適材適所で、できるだけ寿命を延ばしてあげられような配慮をして「困ったときのシーリング」にならないように使いたいと考えています。



住文化について

平澤 信助

日本ルーフ建材(株)

縁あって建築業界に入って2年余になります。営業をしてみて、伊那の家々の屋根に目がいくようになりました。関心を持って見ますと、その変わりようは驚くばかりです。先づ茅葺きの屋根がほとんど無くなってしまったことです。それに切妻に飾りがある家が少なくなり、石置き屋根に至っては探がさないと見つからないという有様です。代ってハウスメーカーの画一的な家々が建ち並んでいるのが目につきます。この現実はいちただけでなく、岡谷、諏訪、松本、佐久と地域を広げても同じであり、近隣の県でも同様です。地方の家の持つ文化が、急激に失なわれてきているようです。全国どこに行っても同じ風景になってしまうことは私にとって誠に淋しい限りです。家造りは、一生の夢であり、一生に一度の事業とも言われるだけに、それぞれ地方の文化を考えますと、単に淋しいだけでは済まされない問題です。設計事務所の先生方の個性と、建物に対する夢や情熱が新しい地域文化を創り出す役割を担っていると思っております。



何とかしてよ!!

玉井 敏之

トライアン(株)

我が国の経済情勢は極めて深刻な状況にあり、一刻も早い景気の再生・回復を皆が望んでいる昨今です。

特に我々建設業界におきましては、生き残りを懸けたサバイバルの真っ最中。何年前か前までは「義理」「人情」の業界だったのではないのでしょうか。でも、今は安ければどこかの業者でも・・・寂しい時代です。

商売は利益を目的として行っているわけですが、現状では商売にはなっていません。この先景気が回復し商売が成り立つまでには何年かかるのでしょうか？それまでにどのくらいの会社が廃業をせざるをえなくなるのでしょうか？まだまだ厳しい状況が続くと思いますが、今はただ「耐える」「我慢」の時代。必ずまた良い時代が来ます。それまでお互いに耐えしのぎ、我慢して良かったと思えるように皆で頑張りましょう。

1日も早く景気が回復することを願い「何とかしてよ!!」。

クラブインサイド

第3回会員委員会 松下重雄

2月17日、松本ルートインにて開催。あすなる巡回展の会場が各地域で決定し、準備打合せを行う。

(仮)建築家カタログ作成部会 松下重雄

2月24日、松本ルートインにて開催。「文屋」木下氏に同席願ひ基本事項(出資金、日程など)を決定する。

第3回正副会長会 出澤 潔

3月16日、午後4時からカミムラ建築研究所で開催。本期事業・決算予測、来期事業・予算案、来期は積極的な参加要請が予想される支部活動への対応を協議した。

第3回あすなる見学会 松下重雄

3月23日、文化講演会に先立ち講師の佐々木睦朗氏に飯田市の「小笠原資料館」(妹島和世氏設計)を説明いただく。遠方にもかかわらず約30名が参加。

第7回文化講演会 片倉隆幸

3月23日、松本市ホテルブエナビスタで開催。佐々木睦朗氏を講師に招き「空間構造と微細な構築」をテーマに講演を聞いた。会場には会員や建築関係者など約90人が集まった。懇親会は講師、来賓を交じて大盛況。

あすなる巡回展 松下重雄

3月19日、岡谷市をスタートに、飯田市、松本市、長野市、上田市を巡回。24名の会員作品と'98年度学生卒業設計コンクール入賞作品の合同展が各地で好評。

学生卒業設計コンクール'99審査会 上村保弘

4月13日、松本勤労者福祉センターで開催。大学、高校各部門の入賞作品を決めた。応募は大学の部が信州大学から7件、高校は建築科を持つ4校から10件。審査は、藤森照信(委員長)、柳澤孝彦、柳沢京子、宮本忠長、出澤 潔の各氏が務めた。

第1回幹事会 小野澤 秀世

4月13日開催。クラブ報告、本部・支部報告など。クラブ報告は各委員や(仮)建築家カタログ作成部会活動について。また、会員入退会の承認、'98年度収支決算報告、'99年度事業計画案並びに収支予算案の提出を行った。5/18開催の'99年度通常総会運営については、スケジュール、内容などを審議した。

1999年度通常総会へのご案内 関 邦 則

今年の通常総会は来る5月18日(火)に長野市のホテル国際21において開催する予定です。記念講演会は世界的に活躍著しい妹島和世氏にお願いしてあります。新年度に向けて多数お集りいただきたいと思います。

クラブアウトサイド

支部保存問題拡大委員会東京大会 依田政司

2月20・21日、東京八王子の大学セミナーハウスで開催。委員会の発足から10年間の総括とこれからの活動に向けてという主旨のもと、3つに分けたセッションと最後にパネルディスカッションを行った。多くの参加者のもと成功裡に終わりました。

第10・11回支部総務委員会 高橋重徳

3月3日・24日開催。役員定数問題は、役員会の承認を受け、現行総数38名から20~28名とすることで総会に提出される。財政問題は、退会者及び未納者等の増により厳しい状況。第3回分の地域活動費の減額に協力して頂きたい。99年度予算編成に苦慮している。

第7回支部役員会 関 邦 則

3月10日、J I A 館。役員定数削減は総会承認後2000年4月から実施(当クラブは1名に)予定。指定法人化について前向きに意思表示。決算は厳しい見込み。

第13・14回地域組織委員会 出澤 潔

2月5日、3月19日開催。委員会の継続と今後の課題、第3回全国地域会合会議の開催、総務・会員増強両委員会との合同会議開催の必要性などについて協議した。

第1回支部役員会 関 邦 則

4月14日、J I A 館。新旧役員会が開催され新役員構成が示された。また、5月20日の支部総会の議案内容とスケジュール(近畿支部登録建築家制度パネルディスカッション)を確認した。本部も理事定数を削減する。

第2回アーキテクツガーデン'99実行委員会 高橋重徳

4月14日、J I A 館。役員会に引き続いて開催。各イベントの進行状況の報告があった。地域会としてはイトーキ銀座ビル3階ギャラリーにて「まち並展」を構成していく。同会場では模型展・CG展も開催される。

新入会員紹介

賛助会員

富国物産(株)(松本市)



J I A
長野県クラブ

編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026(232)3897
FAX 026(232)5303

作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。